林大だより

第 76 号　　平成 30 年 10 月 19 日　　長野県林業大学校翌桧会

2 学 年　オーストリア研修

1学年　屋久島研修

1学年　御嶽山登山道整備

校長として

長野県林業大学校　校長　河合　広

学生の元気のいいあいさつを朝一番に浴び、元気よくラジオ体操する学生、目をこすってテンポの合わない学生、そんな姿を講堂の後ろから見ていて、今日も一日が始まる、と、今までにない時間を過ごしています。そして、週番の連絡の後、「朝のスピーチ」が始まります。これが校長の始めの仕事です。

よく考えてきたものやその場で思いついたものなど、とにかく学生が発表したことを手早くメモに取り、まとめなければなりません。そして、一週間のベストスピーチを発表します。四月の始めの頃のスピーチで「名前を覚えてくれない人とは話をしても身に入らない」と言われ、それから必死に三十九名の名前を覚え、一週間後には、全員の顔写真を見ながら名前を書けるようになりました。二週間後には、顔写真を見なくても、諳んじられるようになりました。（しかし、最近の学生の名前はむずかしい。）

講義では、林業概論を担当していますが、座学と試験場、製材工場や自然林などの校外研修で、林業の基礎的な考え方を伝えています。特に県外の学生は、木曽の自然に初めて触れ、いろいろと質問され、戸惑いとうれしさを感じています。学生の何でも吸収しようとする感性を引き出したいと思います。

自分が学生の時からお世話になっている先生（大学を退官されています）から「林大の教授は、林業の実務をやってきた公務員だからいいのだ、自信を持って学生に対面しなさい。大学の教授は研究者だから、君たちとは違うのだ。」と言われました。大学で先進的な研究を続けていらっしゃる先生方の足元にも及ばないと重々承知しておりますが、他の教授たちとも切磋琢磨し、学生の指導を充実していきたいと思っています。

まだ、半年しかたっていませんが、とても充実した日々を過ごしております。二年生の進路も方向性が決まり、慌ただしく時間が過ぎていますが、もう少しゆっくりと時間が過ぎてくれないかと願うばかりの今日この頃であります。

JLC 日本伐木チャンピオンシップ（青森県）

1学年　城山登山

これからの林業技術者

中部森林管理局　局長　宮澤　俊輔

森林は、育つのに長い時間がかかることに加え、多面的機能を持つ社会資本でもあるため、ややもすると「森林の価値は公益的機能も考慮すべき」、「林業は普通の経済学の時間軸や収支では適切に評価できない」などと、本質を詰めずに議論を避けてしまうきらいがあります。

しかし、森林の産物である木材は、世界各地で時々刻々と売買が行われている原油や鉄鉱石と同じ天然資源の一つに過ぎません。個々の木材価格は、ロットと品質と納期をベースに冷徹に決められていきます。つまり、木材を原材料とする木材産業から見れば、「公益的機能や地域振興のために適正な木材価格」のストーリーの出番はあまり多くありません。

長野県の森林資源は豊富です。しかし、県内の人口は約二百万人で年間新設住宅着工戸数は約一万戸しかありませんから、県内需要だけですべての木材供給量に応えることは難しく、県外需要の確保が必要不可欠です。

では、どこの誰に売るのか？となれば、人口が多くて需要は大きいが森林は少なく木材供給も少ない、首都圏のような大消費地が考えられます。でも、考えることは皆同じ。長野県のような全国の森林・林業地が、こぞって「うちの材が一番」と大消費地に売り込みをかけています。

この場合、消費地の買い手は、最も有利な木材～ロットが満たされ品質も高く納期は確実で価格が最も安いもの～を選ぼうとしますから、そのお眼鏡にかなうことが何より大事になります。このために特に大切なことが、①しっかりした技術に裏打ちされた低コストでの森林施業と、②県外でも通用し国際的な品質規格であるＪＡＳ製品としての木材加工です。

林大生の皆さんが、二年間しっかりと勉強されて、国内外のライバルと戦える林業技術者の卵に成長し、そして各地の様々な分野で活躍され、飛躍されていくことを心からお祈りしています。

がんばれ林大生！

林大生に期待する

木曽南部森林組合　代表理事組合長　坂家　重吉

長野県林業大学校が創立四十周年を迎え心よりお祝い申し上げます。卒業生は県内はじめ全国各地の森林・林業の最前線で活躍されており感慨深いものを感じております。

木曽南部森林組合は上松町と大桑村の森林組合が合併してできた組合で、業務は間伐などの保育事業と共に、人工林の多くが伐期を迎えたことにより木材の生産に軸足を置く時期になってきました。こうした中、組合の運営体制の拡充と次世代の組合経営全般を担っていくべき人材を昨年から募集しておりましたところ、今年度においては林大卒業者を含む三名を採用したところです。溌溂とした若者が入ったことにより組合全体が活気に満ちています。

さて、今夏は連日厳しい暑さに見舞われ猛暑・酷暑を超え、もはや災害レベルの暑さだとも言われておりました。また、近年の局地的な集中豪雨などの状況を見るにつけ、これは人間が地球に負荷を与えたことに起因する異常気象ということなのか。それとも、地球の営みとして長い周期の中で起きていることなのか。いずれにしても森林づくりに携わる者として、このような極端な気象現象が今後の農林業にどう影響してくるのか気になります。

別な視点ですが「二〇四五年問題」と言うことを耳にしたことがありますか。ある科学者が西暦二〇四五年頃になると人工知能（ＡＩ）が人間の能力を超えると言うもので、人間生活にとって安全性なども含めてどのような影響が出るか危惧されております。

こうしてみると、この先自然界の営みや技術革新など、今では想像もできない出来事が起きてくるかもしれませんが、元より森林・林業に関わる者は数十年いや百年先を見据えて忍耐強く仕事をしてきております。

そこで、林大生の皆さんに申し上げたいことは将来どのような厳しい状況の中にあっても、林大で学んだ思考力と実践力をもって力強く人生を切り開いていくことを期待しております。

結びに、長野県林業大学校が森林・林業の人材育成機関としてますます発展されますようご祈念申し上げます。

寮生活　昼食風景

学生のページ

あすなろの呟（つぶやき）

学校・寮生活から

林大に入って

1学年
赤塚　也晃

林大に入学して早くも半年がたちました。もう半年が経ってしまったのです。この半年は長くも短い時間でした。この半年には一年生で一番大きいといってもいい行事の屋久島研修がありました。屋久島は、三六六日雨といわれるほど雨の多い土地ですが運よく初日の移動日以外晴れ、とてもいい天気の中、屋久島を全員で登りきることができました。

林大の寮生活では、毎日いろいろな人から刺激を受けながら楽しく生活しています。寮母さんが毎日一生懸命作ってくれる美味しい食事も楽しみの一つです。

授業では、初めて聞く言葉など初めてのことがたくさんあります。ほかの人に遅れを取らないように必死に頑張っていきたいです。

林業大学校生活は二年間という短い時間です。一つでも多くの知識を吸収し、将来を見据えてこれからの生活に励みたいと思います。そして、専門的な知識や一般科目の授業もしっかりと受けていきたいと思います。アルバイトとの両立もしっかりしていきたいと思います。

1学年　入学式

林大が教えてくれる事

1学年
風間　信志

私は長野県林業大学校に入るまでは寮生活が不安でした。寮生活というだけでもつらいのに四人部屋なんか耐えられないと思っていました。

しかし、体調を崩したら気遣ってくれる先輩もいたり、進路について相談にのってくれる先輩もいて何の心配も不要でした。毎朝起きたら先輩に挨拶して、ラジオ体操から始まり授業、授業が終わればバイトに行き、帰ってきたら寝る。始めは不慣れでしたが何とかなっている毎日です。

長野県林業大学校は木曽町にあるのですが、学校自体も地域との関わりがとても深く温かい町だと思います。例えば、木曽地域のソフトボールの大会に参加させて頂いたり、軟式の草野球、木曽地域のお祭りなど幅広い事を経験させてくれます。

長野県林業大学校は、普通科目、実習など本当に幅広い事を学べる学校です。中には土日、講師である先生について行き、学びを深める学生もいます。興味があればとことん学べる、そんな学校です。

1学年　5月　造林学実習（植栽）

林大に入って感じたこと

１学年
齊藤　裕輝

今年の四月に私は入学しました。最初は先輩と同期の人たちと上手くやっていけるか不安でしたが先輩たちは優しく、同期たちとは面白く楽しい生活を送っています。

寮では、色々揃っており、図書館は学生で管理するようになっておりいつでも使え、寝る場所はカーテンで仕切ってあるなど、学生に配慮してあって、とても過ごしやすいです。

勉学面では、バイトが忙しく睡眠もテスト勉強もしっかり取ることが出来ず、赤点は取っていないものの点数自体はぎりぎりで単位が危うかったので、今後はバイトの量を抑えて頑張っていきたいです。

行事面では、九月には駅伝大会、十月には寮祭があり、大きな行事が続くので体を壊さないように体調を整えながら生活をしていきたいです。今後は小さな無理はしても大きな無理はしないようにして、体調面で心配されないように過ごしていきたいです。

１学年　７月　測量学

林大に入学して５ヶ月

１学年
服部　康輝

私が長野県林業大学校に入学して五ヶ月が経ちました。現在ではすっかり寮での生活に慣れ林大での生活を楽しんでいます。

高校に林大の合格通知が届き、安心感と林大での生活が楽しみという反面、不安もかなりありました。全寮制なので、寮での生活は大丈夫か、同じ部屋の先輩や友人に迷惑をかけないか、授業についていけるかなど様々な不安がありました。そして、平成三十年四月の初めに今までとは全く違う場所、環境での生活がスタートしました。寮での生活が始まり最初の方はやはり慣れない事ばかりでした。しかし、それらの事は生活していくと少しずつでしたが慣れていきました。先輩方も、皆さん気軽に接してくださり入学する前までの不安は無くなりました。

現在では、最初の不安が嘘のように無くなり生活しています。授業の内容は難しいところがあったりしていますが、ついていける様に頑張りたいです。また、これから気を緩めずにしていきたいです。

１学年　７月　体験研修（ほう葉巻づくり）

林業大学校での日々

1学年　三室　晃人

この林業大学校に入学して、生活は自宅での生活から寮生活へと変わりました。寮生活となって、環境が大きく変わり、これからは集団で生活をしていくのだという初めての経験に緊張と不安でいっぱいでした。しかし、この場所で出会った新たな仲間や先輩のみんなの誰もが親切で、私は寮生活にはすぐに慣れました。入学した日から今でも楽しく過ごしています。そして、寮生活となってから以前よりもあいさつを誰にでもより多くするようになりました。

勉強面では、初めての科目がたくさんあり、悩むことも多いですが、友達に教えてもらいながら取り組んでいます。専門科目の実習でも、友達との協力を経てしっかりと学ぶことができています。

入学から約五ヵ月、林業についての知識は深まり、生活もとても楽しいです。これからもまだまだある林大生活の一日一日を大事にして、林業を目指して頑張っていきたいです。

二年生になって

2学年　一宮　遼

私が長野県林業大学校に入学して一年がたちました。

入学したときは、先輩たちに頼りっぱなしだったけど、後輩が入学してきて、最初は引っ張っていけるか凄く不安でした。

しかしオーストリア研修なども終わり、これからは寮祭や駅伝大会といった行事が増えてきます。これらの行事は一・二年生全員が協力しなければ成功しない行事です。そのために私たちが去年の先輩方から学んだことを活かし、それを超える勢いで、後輩を引っ張っていき、これからの行事を共に大成功させていきたいと思います。

そして、残り少ない時間を有意義に過ごして楽しい林大生活を締めくくれるよう過ごしていけたらいいなと思います。

林大に入学して

2学年　櫻井　彩人

林大に入学して二年生になり最後の年になりました。入学当初は、初めての寮生活や初めての環境で不安がありましたが、二年生の先輩方に優しくしてもらい、すぐに林大生活に慣れることが出来ました。入学後すぐに屋久島研修にいきました。入学してすぐなので周りの皆のことをよく知らなかったのですが、長時間山に登って屋久杉を全員で見ることが出来ました。

その後、多くの実習や授業、地域のお祭り、寮祭など多くの行事があり、毎日が充実していて楽しかったです。

二年生になると今度は自分たちが先輩になりました。一年生が入寮してくるときは自分たちが入寮して、もう一年たったのかと感じ、一年間がとても充実していたと感じました。

林大生活も残り少なくなってきました。林大で過ごした時間は自分にとって充実していました。残りの生活も充実させていきたいと思います。

2学年　5月　車両系建設機械技能実習

2学年　6月　岐阜県立森林文化アカデミー交流事業

林大に入学した理由

２学年
南坂　拓杜

私は、幼い頃からよく自然に触れ合ってきたこともあり、将来は林業に関わる仕事をしていきたいと思っておりました。そのため高校は木曽青峰高校に進学し林業について学び、その中で、もっと実践的なことを学んでいきたいということを思い林大に入学しました。

林大では、全寮制ということもあり同級生や先輩と寝食を共にし、テストが近ければ集まって勉強したり、暇なときは皆で遊んだりととても充実した日々を送ることができています。日中の授業も大学の先生等に教えて戴けるので、入学前予想していた授業よりもより専門的で、実践で生かせるような知識が多く、楽しく授業を受けることができています。また実習では、実際に山に入り保育作業や伐倒作業を行っており先生の指導の下、様々な道具を使いこなせるようになりました。

残りの林大生活はもう少なくなってしまいましたが、卒業までにより多くの知識を吸収できたらと思っております。

２学年　６月　木材加工学実習

林大で学んで

２学年
堀井　拓人

私は高校時代にも林業を学んでいて、将来も林業をしたいと考えていました。しかし、そのまま就職するか林大に来てもっと勉強するか迷っていましたが林大を選びました。今ではその選択は正解だったと思っています。

高校のときに就職していたならば技術的にも精神的にもやっていけなかったと林大で学んでいて思います。しかし、林大に入る前はすごく不安で特に寮生活が不安でした。実際に入学して最初の頃は慣れることに苦労しました。

しかし、屋久島研修や日々の生活で会話をしていくうちに、最初感じていた不安は無くなりました。今では寮生活はすごく楽しく充実しています。多くの人が生活するならばルールというものがありますが、その厳しい中で楽しんで生活したいと思う学生が生活する環境としては最高の場所ではないかと思います。この寮生活は将来就職しても絶対に自分のためになると思っています。

２学年　７月　みこしまくり

保護者のページ

会の一言

林大・木曽町・娘に感謝

岩田　恵

入寮日に初めて木曽の町を訪れました。娘が長い時間をかけて選び、そして入学を許可して頂いた学校は、どんな所だろうかと楽しみでした。緑豊かな山と静かな街並み、美しい木曽川の風景はきっと充実した学校生活になるだろうなと、すぐに感じさせてくれました。

寮に到着すると別れを惜しむ間もなく、娘はあっという間に荷物とともに寮の中へ先輩方と消えて行きました。戸惑う私に、先輩の方が「自分達も分からない事ばかりですので大丈夫です」と話して下さいました。手厚く支え合い、それを次の学年に繋げて行く学校の伝統が守られているのかなと安心して見送ることができました。

入学後も学校生活の他、地域でのアルバイトや行事のお手伝いに忙しそうです。「地域との連携」「全人教育」の言葉通り、先生方はじめ町の皆様が娘を見守り、鍛えて下さっていることと感謝しかありません。

私達がこの素晴らしい木曽の町と林大を知ることができたのは「樹木医」という目標を持った娘のおかげと彼女にも感謝です。ここでの豊かでかけがえのない経験を自分の糧として、次の後輩へと繋げるような林大生になってくれるよう応援し続けたいと思います。

オープンキャンパス

運送業の実態

清岡　祐一

私は運送業に従事しております。国有林からの原木を貯木場に下ろしてくる仕事もしています。近年、運送業界にも深刻な問題が発生しています。それは、運送業界の高齢化です。私の働いている会社もそうなんですが、年々高齢化が進んできています。この問題は、私の会社だけでなく、日本全国の運送会社が抱えている深刻な問題になっています。このまま運送業界の高齢化が進んでいくと日本の物流に大きな影響が出てくるような気がして心配です。何とか今の若い世代の人たちにも物流に関心を持ってもらうためにはどうすれば良いかを日々考えています。なかなか難しい問題の為、すぐに答えは出ないのですが、山から原木を下ろしてくるのも、コンビニに弁当や飲料水を運んでくるのも、宅配便も、全て運送業です。これからも私は、この問題について考え続けるつもりです。

気持ちのよい林大生に感動

高橋　伸幸

皆さん、こんにちは。仕事柄ほとんど自然に我が子を連れだしてあげることも出来なかったのに森林の勉強をしたいという我が子からの進路希望を聞いた時はとても感心しました。今、自然豊かな木曽の地で一歩外に出れば全て実習地の環境で仲間達と寝食を共にして学ぶ二年間は彼の人生の中で何物にも代えがたい時間になると確信しています。特に感心したのは林大生の挨拶が素晴らしいことです。オープンキャンパスの時から感心しましたが、今時の子供たちが一番苦手な「挨拶」がごく普通に出来ることは本当に素晴らしいことだと思います。知識や技術だけでなく礼儀や生身の人間関係を築いていける力はSNSがあたり前の時代だからこそ必要なものです。頼もしい先輩、全国から集まった仲間達と共に日本の森を支えることの出来る人材になれるように一生懸命勉強してください。皆さんを応援しています。

林大に入学し半年

堀川 充

林業大学校に入学して半年が過ぎようとしています。学生生活も1／4をすぎ、アメフト（色々と問題がありましたが）で言うとファーストクウォーターが終わりキックオフ（入学式）からのひとつの節目となります。

息子も帰宅するたびにすこしずつ成長しているように見えます。

初めての機械、大きなものを相手にする作業。交通教室でよくある、かもしれない動作を心掛け初心を忘れず事故の無いよう気を引き締め学習していただきたい。

昨今、里山も荒れているようです。うちの息子は山育ちで海が好きでよく海に行きますが、豊かな海を作るには山を整備しなくてはなりません。

森林整備、野生鳥獣対策、松くい虫対策、林業に期待されていることは大きく林業大学校で学ぶことで多くの知識を吸収し習得することはこれからの人生の中で大きな宝となると思います。

先生方をはじめ同僚の方々、お世話になる皆様よろしくお願いいたします。

長野県からの帰省

山下 由美子

夏休みに入り、息子が大阪の自宅に帰ってきました。去年の夏には想像もしていなかったことです。中学から入った学校は同級生の大半が理系に進学する中高一貫の男子校でしたが、息子は六年間ずっと文系志望でした。

十月にセンターの願書を出し、第一志望は文学部で自宅から通学可能圏内の大学にすると聞いていたので、息子から突然「将来は林業の仕事に就きたいから、大学の文学部より林業が学べる学校に行きたい」と言われたときは本当に驚きました。十一月からのまさかの進路変更でした。通う高校に参考になるような資料は全くなく、親としては不安もありましたが、自分で調べ、考えた上で長野県林業大学校を受験すると決めた息子を応援するだけでした。

自らが選んだ道です。将来のため、悔いのないように林大でしっかり学んで欲しいと思います。

トップガン研修

感謝

青柳 憲善

息子が林業に興味を持ったのは高校一年生のときでした。

進路を林大に決めたときは体力面や寮生活等本当に大丈夫なのかと不安に思いました。

入寮の日、緊張しながら寮に着くと大勢の先輩達が待っていてとても気持ちの良い挨拶で迎えてくれ、あっという間に荷物を運ぶと息子と共に部屋へ案内してくれました。

数分の出来事で驚くばかりでしたが、なんとも頼もしい先輩達の姿にここなら安心して息子を預けられると思いました。

あの日から一年半が過ぎ、帰って来る度に林大でのいろんな話を聞くと、充実した毎日を送っているのを感じます。

学校や寮生活、アルバイト、地域の行事等多くの関わりの中で、心身共に大きく成長させて頂きました。

卒業まであと半年、二度とないであろう寮生活を楽しんでほしいです。

息子がお世話になってます

木島 美江

今から二年前、高校の進路指導の先生から林業大学校を進められ、主人と三人でオープンキャンパスに参加しました。そこで息子は一回で気に入り「僕絶対林業大学校に行きたい」と言い心が決まったようでした。私も、オープンキャンパスでの雰囲気、そしてしっかりとした目標に向かって取り組んでいる学校の姿勢が伝わってきて、息子同様とても気に入ってしまいました。加えてその時いただいた生徒さん一押しのカレーライスは評判通りとても美味しく母としては息子の毎日の食事の面でも安心でした。そし

てめでたく入学が出来て早いもので学生生活も残すところ後半年となってしまいました。全寮制のため日常の細かい所は分からないまでも、たまに見る息子の様子を見る限りでは充実した日々を送っているのだなと感じています。今は林業大学校との素晴らしい出会いに感謝するばかりです。

木曽の林大での学びに感謝

高山　一恵

娘は、高校時代に入った部活で、毎日眺めていた常念岳等に登り長野県の森林の美しさを感じつつも、最も身近な足元の里山の危うさを目の当たりにし、もっと木の事、林業の事を知りたいと選んだ林大でした。ここで学べるのも、あと僅か半年程になりました。

憧れの屋久島やオーストリア研修は、見聞を広げる事ができ、素晴らしい経験だったようです。多くの授業や実習の一つ一つが本当に楽しそうで、帰省の度に報告してくれる姿は、親としてとても嬉しかったです。

心配していた寮生活でしたが、美しく厳しい木曽の自然と良き仲間達、先生方や寮母さん達、家族ぐるみで支えてくださったバイト先の方々、剣道の先生等、多くの地元の方々のおかげで乗り切り、成長してこられたと思います。本当にありがとうございました。

卒業後に進んでいく道で、林大で教えていただいた知識や技術を生かせるよう、更に学び続けていってほしいと思います。

インターンシップ発表会

林業大学校へ進学して

福原　清二

息子（清文）は、幼いころから虫や自然が大好きで、虫の名前については知らないものがないくらいよく知っていました。そんな息子が高校（普通科）を卒業し、林大へ進学し一年半が過ぎようとしています。まさか林業の道を選択するとは思っておりませんでした。入寮日に息子も親も不安でいっぱいの中、先輩方が笑顔で出迎えてくれ、引越し荷物も車から部屋まで全部運んでくれました。不安が一気に吹き飛び、林大へ来て本当によかったと思いました。昨年は木望祭にも参加しました。全寮制と言う事もあり、皆が協力して頑張っている姿に感動いたしました。息子は自然が大好きです。木曽谷の自然の中で林業について学ぶ事ができ、本人にとっては一番の癒しの場かもしれません。後、約半年、林業についてしっかり学び、卒業後の進路に向けて頑張ってほしいです。先生方、また、木曽町の皆さん、いつもお世話になっております。今後もご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。最後に、校長先生が息子を「きよ！きよ！」と呼ぶそうで親しみを感じます。

未来への一歩

山下　順子

息子が林大にお世話になり、二年が経とうとしています。父親が林業の仕事をしているからなのか、高校は林業など学ぶ学校に進みました。進路を決める時、長野の林大を知り、息子は迷いもせず「この学校に行きたい」と決意していました。親としては、色々な道や進む先を迷って考えてもいいんじゃないかと思っていましたが、息子が林大に決めた理由など聞き「良いのかも」と感じ、オープンキャンパスに行き、学校の様子や先生方や先輩達の姿を見て「ここなら自分の将来をみつけられるんじゃないか」と思い、息子を安心して後押しすることが出来ました。家を出ることも寮生活することも初めての経験で期待と不安もあったと思いますが、今では、良いクラスメート、先生方、地域の方々の支えや、屋久島・オーストリア研修などの経験も出来、そのたび成長していく息子の姿を感じることが出来ました。おかげで自分の将来の目標もみつけることが出来て良かったと思っています。

林大で、色々な方々に出会えて、色々な経験が出来て良かったと、とても感謝しております。

檜のアドバイス

短くても濃い二年間を

上田地域振興局
林務課　技師
武田　菜那
（第36期生）

私は林業大学校に沢山の思い出があり、今でも鮮明に思い出せます。

入寮日に不安でいっぱいだった私に先輩や一足先についていた同級生が、温かく声をかけてくれたこと。

裏山の登山、マラソン大会や屋久島登山を通じて仲間のことを知った四月のこと。

御嶽山の参道整備、オーストリアでの研修をしたこと。

様々なことが学べた授業のこと。

同級生や先輩後輩と遊んだり、意見がぶつかったり色々あった寮生活のこと。

地域の方と楽しく過ごせたお祭りのこと。

林業大学校での二年間は、短い時間でしたが、書ききれないほどの思い出が詰まっています。

今年の八月、林業大学校が四十周年を迎えた記念行事に参加させていただいた際に、思い出がふつふつとよみがえり、学生時代に友人と行ったお店に立ち寄ってみました。その時に店員の方が私たちの学年を覚えていて下さり「皆は元気？今はどうしてるの？」と声をかけてくれました。

日々沢山の方と接しているお店の方が私たちを覚えてくれたことは嬉しかったです。

林業大学校で過ごす時間はたった二年です。しかし、その二年の中で沢山の人に出会え、沢山の人と過ごした時間が今の私の中で糧になっていたんだと考えさせられました。

そんな時間を過ごせたのも、同級生、先輩、後輩だけでなく先生方や寮母さん、舎監さんや地域の方々が、林業大学生を温かく見守って育ててくれたからです。

せっかく成長のチャンスを周りが与えてくれる二年間です。ただ、勉強するだけではもったいないと思いませんか？

在校生の皆さん、残りの林業大学校生活で沢山のことをして、色々なことを感じて、濃い二年間を過ごして下さい。

縦のつながり

企画幹兼教授
吉川　達也

この四月に赴任の挨拶をした時、私が林業大学校に二年ぶりに戻ってきたので、会う皆さんが「お帰りなさい」と言ってくれます。

赴任した後すぐに入学式がありましたが、その時入学した学生は、第四十期生で、今年は林業大学校が創立され、四十周年を迎えた記念すべき年です。

また林大は全寮制で学生と学校職員との距離が近いのが特徴ですが、再び学生と共に学びながら過ごすことができるのは嬉しく思っています。

私は、林大の前回いた三年間で三十四～三十七期生の四代の学生八十名と共に学び過ごしてきました。今回来て、もしもう三年間いることができれば、三十九～四十二期生の学生八十名と共に学び過ごすことになります。

また、二年ぶりに戻ってきたことは意味があって、この三月に卒業した三十八期生も林大で共に過ごすことは無かったものの、入試時の面接や学校祭などを通し、顔と名前を知っています。もし四十三期生も同じようになったとすると、三十四期生から四十三期生まで十期の連続した年代の学生二百名とつながりをもつことになり、これはすごいことだなーと思っています。

六月九日に行われた四十周年記念式典の時にも感じました。

林大の卒業生は、民間の素材生産会社や森林組合、製材・加工や流通会社、また国家・県の公務員などあらゆる職場で活躍され、会社や組織の幹部になっている人も大勢います。その卒業生が、インターンシップや就職活動時など、現役学生を助けてくれている、そういった「縦のつながり」の強みが林大にはあります。

林大の学生は、寮生活を通じて一つ上、また一つ下の期生と強いつながりを持っていますが、もう一つ離れた期生はつながりが少し薄くなります。この期生が離れたとしても、縦のつながりを少しでも強くできたらと思っています。そういうことで卒業生の皆さん、林大に来た時は職員室に顔を出して下さい。（ダメですよ寮母さんの顔だけを見て帰るのは…）その時、今の職場や自分の地域の森林・林業の情報など教えてくれれば現役学生につなぎます。よろしくお願いします。

創立40周年記念事業について

林大だより第75号（平成30年３月号）にて40周年記念事業の計画についてお知らせしましたが、幾つかの記念事業が行われましたのでその様子をご紹介いたします。

①ＪＬＣ（日本伐木チャンピオンシップ）への学生参加

５月19日～20日の２日間、青森市において行われ、髙山亮介君と山嵜正寛君の２名（共に２年生）が選手として出場し、ジュニアクラスで２位・３位の好成績をおさめました。

②記念式典・鼎（てい）談・祝賀会

６月９日に木曽町文化交流センターにて、関係者約160名が集まり、節目を迎えた喜びを共にしました。式典では名古屋大学名誉教授の只木良也様への功労者表彰などが行われ、続いて阿部知事と林業関係者との鼎談、最後は地元食材による祝賀会で締めくくられました。

③記念公開講座（林大生が運営する講座）

７月１日に木曽町御料館（旧帝室林野局）において木工教室の運営補助を行いました。

（木曽町教育委員会の企画・運営）

④記念シンポジウム

８月４日に木曽文化公園文化ホールにて、多くの県内外の参加者のもと、「“森林（もり）”を支える若者を育てる」をテーマとして、基調講演及びパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションは、名古屋大学名誉教授の只木良也様のコーディネートのもと、活発な意見交換がなされました。

編集後記

林業大学校では、毎朝学生が一人ずつスピーチをします。

スピーチを聞きながら、「この学生はこんなことを考えていたのか、意外だな」と驚かされたり、鋭い観察力に感心させられたりすることがあります。

もしこのスピーチの場がなければ、その考えはその人の心の中にだけおさまってしまい、その人の意外な一面を垣間見ることもできず、周りの人達の心を動かすことも恐らくないのでしょう。

スピーチを聞いていて、親御さんにも聞かせてあげたいなと思うことがしばしばあります。親は子が何を考えているか誰よりも知りたいはずなのに、子が何を考えているのかさっぱりわからない。少なくとも我が家では。

スピーチを聞いて学生達の成長を感じつつ、うちの子も同じくらい成長しているのかなと不安を抱きながら、単身赴任生活をはじめて半年が経ちました。

親御さんの代わりに学生たちの成長を見守らせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。